

心療内科医のひどり言

2017年度

中野弘一 医師

60歳の男性が薬の変更について相談に来院した。身体にあちこち不具合があり、高血圧と膝の関節の治療は総合病院でそれぞれ専門の医師に診

ることを教えてもらい、どの薬を減らすかは専門の方に相談するのが良いと考え、心療内科に紹介状を持たずに来診した。3種類の安定剤が処方さ

安定剤の選び方

てもらっていた。また、

かかりつけ医の先生には風邪が治りにくいときなど、なにかと相談に乗つてもらつているという。

循環器が専門のかかりつけ医の先生には、別の病院で血圧の治療をして

いる」とが申し訳なく思っていなかった。ただ、薬局の薬剤師さんに

れていた。

彼はわたしに重なつていると薬局に教えてもらつた薬を見せてくれた。「これは1錠が50mgつて書いてあり、こつちは5mg、そして最後は0・5mg」と表示してある。一番量の多い50mgから止めるのがいいと思う」と切り出した。

僕は1錠あての用量は

度よくしてあります。最

近の降圧剤は1回で3回服用するのと同じ効果が出るように、長く血の中に均等に効くように設計されたものが一般的になつています」と伝えた。

彼は「今まで用量が多い方が強く身体に負担になつていると何となく思つていました。今日は相

なるよう調節してあることを説明した。「50が5より10倍強くて、50が0・5より100倍強い（）とはなく、50も5も0・5も大体同じ強さなんです」と伝えた。

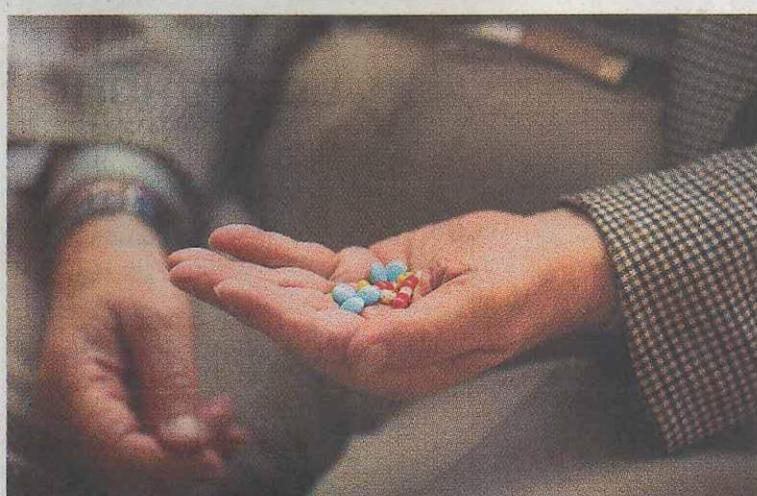
彼は「血圧の薬も同じかね？」と続けて僕に質問をした。僕は「血圧の薬は1日3回服用したり、朝1回服用すると」

ではなく、薬が身体から代謝されて減っていく時間と期待される力価の組み合わせで一番種類が多い。薬を選ぶ係の僕らは1錠が何mgで作られているかで

と喜んでくれた。強さの違いのことは力価と説明する。日本で使われる安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選び何mgで作られているかで

と喜んでくれた。強さの違いのことは力価と説明する。日本で使われる安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選び何mgで作られているかで

と喜んでくれた。強さの違いのことは力価と説明する。日本で使われる安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選び何mgで作られているかで



（三愛病院心療内科医師・東邦大学医学部教

安定期の薬が重なつてい

る」と喜んでくれた。

強さの違いのことは力価と説明する。日本で使われる安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選び何mgで作られているかで

と喜んでくれた。強さの違いのことは力価と説明する。日本で使われる安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選び何mgで作られているかで

と喜んでくれた。強さの違いのことは力価と説明する。日本で使われる安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選び何mgで作られているかで